

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和2年2月号



【有田振興局】2/17 アグリビギナー等技術経営研修（第6回）を開催

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1 - 3
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～管内3小学校「下津みかんに関する交流会」の開催～	
2. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～貯蔵に適する温州みかん優良系統の食味評価検討会を実施～	
3. 海草管内カメムシ越冬量調査を実施	
4. 和海地方農業士会研修会を実施	
II 那賀振興局	4 - 5
1. 那賀地方農業士協議会女性部会カトレア会が県外研修を実施！	
2. 新規就農者研修会を開催	
III 伊都振興局	6 - 7
1. 伊都地方農業士連絡協議会が県外研修会を開催	
2. 新規就農者座談会を開催	
IV 有田振興局	8 - 9
1. 有田市糸我地区「いも茶がゆと餅つきの集い」が開催	
2. アグリビギナー等技術経営研修（第6回）を開催	
V 日高振興局	10 - 14
1. 日高地方農業士会女性部会が現地研修を実施	
2. 明日を考える会が食育体験を実施	
3. 日高川町4Hクラブ員が日高川町農業祭にて焼き芋を販売	
4. シカレディースによるシカ肉料理のPR活動	
5. 「農トレ！ひだか」～第3回セミナー開催～	
6. 日高地方生活研究グループ連協が食育推進研修会を開催	

VI 西牟婁振興局 **15-17**

1. アグリビギナー等技術経営研修を開催
2. 農業士経営研修会（第3回経営発展セミナー）を開催
3. 女性起業支援のための研修会を開催

VII 東牟婁振興局 **18-21**

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】
～U I ターン就農相談フェア出展～
2. 三津ノ地域活性化協議会が先進地研修を実施
3. 新宮市熊野川町生活研究友の会が「熊野川なれずし交流会」を開催
4. 古座川町添野川でゆずせん定講習会を開催
5. 北山村でじゃばらせん定・幹腐病防除講習会を開催

VIII 農林大学校 **22**

1. 卒論発表会を開催
2. 農学部卒業式

IX 農林大学校 就農支援センター **23-24**

1. 技術修得研修（第2班）が修了
2. 社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）閉講式を開催
3. U I ターン就農相談フェアを開催

IX 経営支援課（農業革新支援センター） **25-26**

1. 県農林水産業のリーダーを認定
～令和元年度農業士・林業士・漁業士認定式を開催～
2. 和歌山県青年農業者会議

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～管内3小学校「下津みかんに関する交流会」の開催～

和歌山市立雑賀小学校5年2組では、今年度、社会科学習の一環で下津みかんをテーマにした学習に取り組んでいる。児童達は、10月29日に下津町農業士会会員のみかん栽培園や選果倉庫を見学し、11月11日には校内において、農業士会会員や農業水産振興課職員等からみかんの栽培方法や下津みかん産地の現状や課題、重点プロジェクトで取り組んでいる内容等について説明を受け、これからの下津みかん産地のあり方を考えていた。

2月13日に、雑賀小学校児童23名が海南市立下津小学校を訪問し、下津小学校と海南市立加茂川小学校の5年生、下津町農業士会（森岡利行会長）の役員やJAながみね・海南市・農業水産振興課の職員に対して、社会科学習で取り組んだ「下津みかん」について発表を行った。児童達はクイズ等を交えながら、下津みかんの魅力、後継者の減少や耕作放棄地の増加といった課題等を説明し、最後に「下津のみかんを守ってください。将来、みかんを作ってください」と熱く呼びかけた。また、下津町農業士会の役員からは農業の魅力や農業を仕事にした理由等について話があり、下津みかん産地に住んでいる小学生にとって、今回の交流会は改めて地域の特産の下津みかんを認識する大変良い機会となった。

当課では、今回のような学習が下津町内の小学校でも実施されるよう、関係機関と連携して検討を進めていきたいと考えている。



下津みかんに関する発表

2. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～貯蔵に適する温州みかん優良系統の食味評価検討会を実施～

農業水産振興課ではJAながみねと連携して、下津地区特産の「蔵出しみかん」に適した新たな品種を探索することを目的に、12月から浮皮が少なく有望と考えられる品種・系統と対照品種計11品種・系統の貯蔵試験を実施している。2月19日、JAながみね旧仁義支店において、JAながみね下津柑橘部会オレンジ会を対象に貯蔵果実の食味評価検討会を開催した。はじめに、当課から貯蔵している優良系統の特徴について、JAながみねから貯蔵果実の品質調査結果について説明した後、会員13名が果実の外観や甘み、酸味、じょうのうの厚みを総合的に10点満点で評価した。



食味評価検討会

会員からは「これは、うまい!」、「酸っぱい」等と言った率直な意見が出され、超晩生の系統や令和元年11月に品種登録された「植美」など数品種の評価が高い結果となった。このため、来年度は評価の高かった品種を中心に生育調査や貯蔵試験等を実施し、「蔵出しみかん」に適した優良系統の早期選定を図りたいと考えている。

3. 海草管内カメムシ越冬量調査を実施

2月19日、かき・もも研究所と協力して、海草管内でカメムシの越冬量調査を実施した。当日は海南市で3か所、紀美野町で6か所の地点で調査を行った。各地点において日の当たる斜面等で、約500の広葉樹の落ち葉をかき集め、後日、かき・もも研究所でカメムシの種類と数を確認した。

その結果、採取した落ち葉からはチャバネアオカメムシが合計6匹確認され、昨年よりも5匹多かった。果樹に被害を与えるカメムシは、主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの3種類で、越冬量を把握することは次年度の発生量の目安となり、過去のデータより越冬量が多いと次年度のカメムシ発生量が多い傾向にある。

来年度も、4月から10月まで、各週における、トラップを利用したカメムシ捕殺数調査を予定しており、今回の越冬量調査と組み合わせて、防除啓発に努めていく。

なお、最新の調査結果については、海草振興局農業水産振興課ホームページに掲載していく予定である。



落ち葉をかき集める



越冬量調査地点

4. 和海地方農業士会研修会を実施

2月27日、和海地方農業士会（水谷好宏会長）は大阪府内で(株)クボタ堺製造所、堺伝統産業会館、J Aいずみの農産物直売所「愛菜ランド」の3カ所において現地研修会を実施し、会員及び関係者を含めて13名が参加した。

大阪府堺市の(株)クボタ堺製造所では、最初に会社の概要説明やパンフレット「安全な農作業のキホン」等により農作業安全についての意識を高めた。その後、トラクターやエンジンの組み立て工場とショールームを見学した。参加者からは「日頃使っているトラクターの製造ラインを見られて良かった」、「工場内の整理整頓や効率化が参考になった」等の感想があった。

堺伝統産業会館は、堺の伝統産業を一堂に集めた施設で、刃物、線香、注染和晒(ちゅうせんわざらし)等が展示されていた。特に2階の堺刃物ミュージアムでは包丁やせん定鋏等が数多く展示されており、興味深く見入ったり店員に質問していた。



堺伝統産業会館

J Aいずみの農産物直売所「愛菜ランド」では、地元産のカンキツ、野菜、花き類、加工品等の品揃えが豊富で賑わっていた。会員は自分たちが栽培している品目のコーナーで立ち止まり、品質等確かめながら熱心に話し合っていた。

農業水産振興課では、今後とも先進地研修や各種情報の提供を通じて、農業や地域の振興に寄与するよう努めていきたい。



(株)クボタ堺製造所での研修

Ⅱ 那賀振興局

1. 那賀地方農業士協議会女性部会カトレア会が県外研修を実施！

那賀地方農業士協議会女性部会カトレア会（山名知津会長）は、2月6日、県外研修を実施した。会員9名が「有限会社 荒神の里・笠そば」（奈良県桜井市）を訪れ、そば打ち体験と、そばを通じた地域づくりについて話を伺った。

そば打ち体験では、会員は交代しながら生地をこね、難しい「菊練り」にも挑戦し、親睦を深めた。

四角に伸ばしていく工程では、生地を回す方向と伸ばす回数が決まっていることを教えてもらい、思いのほか伸びる生地に会員たちは驚きつつも楽しんで作業を行っていた。最後に大きな包丁で慎重に生地を切り分け、お店の方に麺を湯がいてもらった後、かけ蕎麦にして試食した。

会員からは「すすれるほど長い麺に仕上がって、お店のお蕎麦みたい」、「生地を伸ばす作業が楽しかった。家でもやってみたい」といった感想が聞かれた。

昼食後は、代表取締役社長 山本信廣氏から笠地域におけるこれまでの活動についてお話を伺った。会員から、集落全戸が社員となって有限会社を設立した経緯や、加工品づくり、鳥獣害対策など多くの質問が出され、活発な質疑応答が行われた。

農業水産振興課では、同様の研修会を通じて今後も女性農業者の活動を支援していく。



そば打ちに挑戦



山本社長による講話

2. 新規就農者研修会を開催

2月14日、アグリビギナー等技術経営研修事業を活用し、新規就農者及び農業次世代人材投資事業の給付金受給者、県農林大学校社会人課程研修生19名を対象に経営研修会を開催し、補助事業や制度資金の説明を行った。

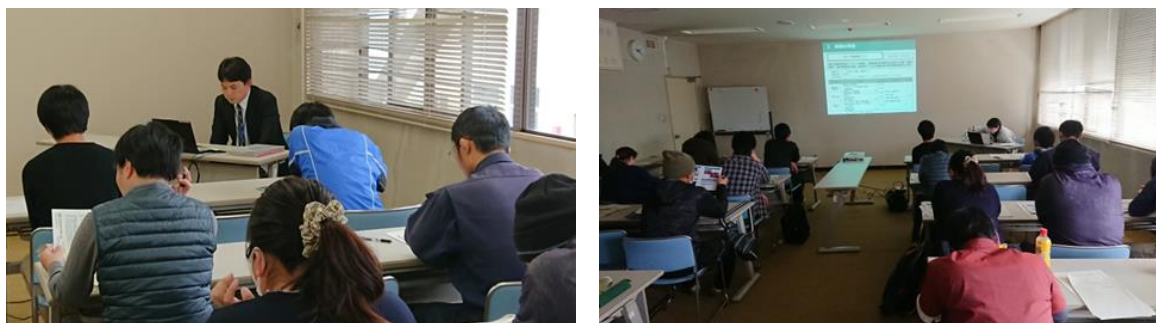
日本政策金融公庫和歌山支店 上席課長代理 畑尾氏からは、青年等就農計画制度、農業次世代人材投資事業、新規就農者向けの制度資金について、説明をいただいた。

また、農業水産振興課職員より、県の補助事業制度（果樹、野菜・花き、鳥獣害）につい

て、具体的な導入事例を交えながら事業概要を説明した。環境保全型農業に関する制度では、有機農業や特別栽培、エコファーマーの仕組みと申請方法をはじめ、GAPの考え方と取組方法についても説明した。

参加者からは、「具体的にこういう場合は融資や補助事業の対象なのか?」、「申請や認証にかかる費用は?」など多数質問があり、担当から、「補助事業の活用は、過剰投資とならないようによく考えてからの方がよい」、「いきなり有機農業ではなく、エコファーマーくらいから始めてはどうか」などアドバイスを行った。

当課は、今後も研修生や新規就農者が求めている内容の研修会を開催する予定である。



研修会

Ⅲ 伊都振興局

1. 伊都地方農業士連絡協議会が県外研修会を開催

2月4日、伊都地方農業士連絡協議会（森口佳幸会長）が自己研鑽と会員相互の親睦を図るために県外研修会を開催し、JA兵庫南の農産物直売所「にじいろふぁ～みん」（兵庫県加古郡稲美町）と兵神機械工業(株)の兵神ファーム（兵庫県加古郡播磨町）を訪問、会員ら16名が参加した。

にじいろふぁ～みんでは、直売所の概要や販売状況等の説明を聞いた後、店内やバックヤードを見学した。当直売所は、平成27年11月にオープンし、今年で5年目で東播磨地域（3市2町）で作られた野菜、米、果物のほか、店内には豆腐工房、惣菜工房があり、出来立ての加工品も販売されている。また、地場産野菜を使用した料理を提供するレストランも併設されている。訪問時はイチゴ、トマト、キャベツ、ブロッコリーなどが販売されていた。

兵神ファームでは、小規模農家でも取り組みやすい低コストな水耕栽培装置を製造販売しており、兵神ファームの澤田主任、清瀬係長らの案内で水耕栽培装置の栽培実証施設の説明を受けた。

装置の単純化や低コスト化の工夫、管理の自動化、蛍光灯使用した育苗庫など、随所に同社のアイデアが活かされ、チンゲンサイ、ベビーリーフ、ミニセロリなどが栽培されていた。

また、当装置の収益シミュレーションモデルの説明を聞き、導入後の栽培技術指導や装置のメンテナンスを含めて初心者でも安心して導入しやすいと感じた。

本協議会では、この様な視察研修を通して会員間の交流を活発にし、連携を強め、先進事例からそれぞれの経営に活かすと共に本地域の活性化に繋げていければと考えている。



にじいろふぁ～みんを見学



兵神ファームを見学

2. 新規就農者座談会を開催

2月19日、新規就農者の経営力の向上と相互の交流を図るため、新規就農者座談会を伊都振興局中会議室において開催し、新規就農者8名が参加した。

はじめに、農事組合法人遊農代表の楠尾肇氏から、直売・加工の取り組みや売れる農産物

作りのポイントの話題提供があり、参加者は熱心に耳を傾けていた。

話題提供を受けて参加者から、法人化のきっかけや加工の取組みを始めるにあたっての施設整備や委託製造について等の質問があり、楠尾氏から自身の経験や事例を用いてアドバイスがあった。

また、販路等について、参加者の取組みに対する意見交換を行った。

参加者からは、「流通の話や原価計算の重要性など、とても参考になった」、「加工に取り組むうえで、気づきが沢山あった」等の感想があった。

農業水産振興課では、今後も新規就農者の経営力の向上や相互の交流を深めるための支援を行っていく。



座談会

IV 有田振興局

1. 有田市糸我地区「いも茶がゆと餅つきの集い」が開催

2月11日、糸我地区青少年育成会（伊藤雅秀会長）主催による「いも茶がゆと餅つきの集い」が開催された。当会は、毎年、地元の有田市立糸我小学校で、アイガモ農法による米作りに取り組んでおり、収穫された米を使い行われる当イベントは、地区の恒例行事となっている。

山でしばを集め、そのしばを燃料にかまどで茶がゆを炊き、臼と杵で餅つきをするという最近では体験することのできない食文化を経験させ、子どもたちに、お米のありがたさや、大切さを伝えるために地区をあげて取り組まれている。農業水産振興課では、米づくりから指導しており、今回も、担当職員が参加した。

当日は糸我小学校の児童約50名に加え、近隣小学校にも呼びかけ希望した16名が参加。児童のしば集めの引率には地区の中・高校生、いも茶がゆや餅の作り方指導には老人クラブ、餅つき担当には箕島高校相撲部員などがボランティアで参加、育成会含めて大勢の大人がサポートした。子供たちは、なかなか経験できない貴重な体験に喜んでいて。

当課では、引き続き、当会の食育事業を支援していく。



餅つき



いも茶がゆを堪能

2. アグリビギナー等技術経営研修（第6回）を開催

就農して間もない農業者に対し、知識や技術の習得を支援することにより、担い手としての定着促進を目的とするアグリビギナー等技術経営研修を2月17日に開催した。

12名の参加があり、有田川町指導農業士の森田耕司氏の不知火園および温州みかん園において、せん定の講習と実習を行った。

上山普及指導員より資料で説明した後、不知火については、森田氏とともに、注意点等を説明しながらせん定の実演を行った。

終了後、有田中央高校の温州みかん園に移動し、農業科の洞教諭の指導のもと、参加者自らせん定を行った。

参加者から、傾斜地なので樹高を下げたいがどうすれば良いか、長く伸びた枝はどのように切るのか、太い枝が日焼けで枯れてきた場合の処理の仕方等、質問が多くあった。

なお、3月には今年度最終として、温州みかん苗木の植付に関する研修を予定している。



不知火のせん定講習



参加者自らせん定

V 日高振興局

1. 日高地方農業士会女性部会が現地研修を実施

2月4日、日高地方農業士会女性部会（二葉美智子部会長）は、みなべ町で梅染め体験と梅加工場の見学等の現地研修会を実施し、部会員17名が参加した。

最初に、梅染め愛好会の会員でもある二葉部会長が梅染めの工程について説明し、各自選んだストールの生地を梅の皮を煮出した染料に約20分漬けて水洗いした後、乾かして仕上げた。また、ストールを乾かしている間に、梅のシロップづくりを体験した。

続いて、南部川生活研究グループ会長の芦裕真弓氏から高城公民館で月1回開催している「ふれあい喫茶やまびこ」の活動について説明を受けるとともに、情報交換を行った。

その後、部会員である地域農業士 平野圭寿代氏の梅加工場を見学し、梅の1次加工の工程やハウスでの天日干しの仕方等について研修を行った。

部会員らは、「塩漬けは、どのようにしているのか」、「ハウスで天日干しするのに何日かかるのか」等熱心に質問していた。

最後に、部会員は満開だった梅林の梅を鑑賞しながら、楽しいひとときを過ごした。

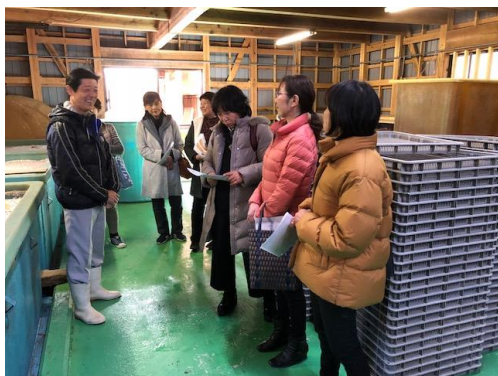
農業水産振興課では、今後も女性部会活動を支援していく。



梅染めの工程を説明する二葉部会長



梅染め体験



梅の漬け方を聞く部会員



白干し梅の選別と樽詰め

2. 明日を考える会が食育体験を実施

2月7日、印南町立稲原小学校6年生12名が、印南町の郷土料理である「かきまでご飯」と「ウスイ豆大福」を作った。

農業水産振興課では、管内小学校での食育体験を推進しており、今回は稲原小学校で実施することとなった。

講師は、明日を考える会の小田美津子会長と坂口久美子氏、島本加奈子氏の3名が務め、小田氏は、「今日は、印南町の郷土料理のかきまでご飯とウスイエンドウを使った大福を作りましょう」と話した後、児童に作り方を説明した。その後、児童が具材を細かく切り、ほぐした焼きサバの身と一緒にサバの骨でとった出し汁と調味料で煮込み、炊きたてのご飯に煮込んだ具材を混ぜ、茹でてから刻んだキヌサヤと紅生姜を添えた。

このほか、児童は地元産のウスイエンドウを塩茹でしたり、小豆あんを丸めた。容器に白玉粉と砂糖、水を混ぜて塩茹でしたウスイエンドウを入れて2回レンジにかけ、柔らかくなった生地であんを包んだ。また、キヌサヤ入りの味噌汁と一緒にその日の給食として皆で試食した。

児童からは、「かきまでご飯は、味付けが甘めで美味しかった」、「大福の生地であんを包むのが難しかった」、「しいたけが嫌いだったけど、かきまでご飯なら食べられた」との声や何度もおかわりする児童もいて大好評であった。



具材を切る



煮込んだ具材とご飯を混ぜる



ウスイ豆の生地であんを包む



かきまでご飯、味噌汁、ウスイ豆大福

3. 日高川町4Hクラブ員が日高川町農業祭にて焼き芋を販売

日高川町4Hクラブ(森幹也会長)は、2月9日、日高川町農村環境改善センターと川辺西小学校体育館で行われた「第14回日高川町農業祭」に出展し、焼き芋の販売を通じて4Hクラブ活動のPRを行った。

本クラブでは、クラブ活動として町内で苗生産される高糖系サツマイモ(甘ちゃん)の試験栽培に取り組んでおり、農業水産振興課では栽培技術指導や活動支援を行っている。昨年度は鳥獣害の発生や生育不良により20kgの収穫量であったため、本年度は土壌改良とマルチ敷設に取り組んだ結果、計約140kgを収穫することができた。また、クラブ員らは、別イベントで焼き芋を提供している管内生産者を訪問し、焼き芋づくりのアドバイスや特用コンロの貸出を受けた他、これを参考に改良型コンロを1機自作し、満を持して農業祭に臨んだ。

当日は日中でも非常に冷え込んだが、開会前から多数注文が入るなど、焼き芋は大盛況であった。焼くピッチも早く、また焼き加減もよく、お客さんからは「サツマイモが甘くてとても美味しい」と大変好評であった。サツマイモは昨年度よりも多く用意したが、昼過ぎには完売となり、過去最高額の売上げを計上し、クラブ員らは栽培から販売までの状況に手応えを感じていた。

当課では、引き続き日高川町4Hクラブの活動を支援していく。



焼き芋の購入を求める来場者と販売
対応するクラブ員



改良型の焼き芋用コンロと焼き芋

4. シカレディースによるシカ肉料理のPR活動

2月9日、日高川町農業祭においてシカレディース(後藤明子隊長)がシカ肉料理のPRを行った。家庭でのシカ肉料理の普及に取り組むシカレディースは、平成25年4月に日高地方生活研究グループ連絡協議会の有志で結成し、今回は3名が出動した。

昨年に引き続き、シカ肉の燻製の試食(100食)を



シカ肉料理のPR

実施し、約 1 時間ですべての提供を終えた。試食した来場者からは、「やわらかくて美味しい」、「どこで販売しているのか」、「ぜひ商品化してほしい」など、様々な感想が聞かれた。

隊員は、シカ肉の燻製をもっと簡単に作る方法を考えたり、新たなメニューの開発へ意欲がより高まったようだ。

農業水産振興課では、今後もシカレディース活動を支援していく。

5. 「農トレ！ひだか」 ～第3回セミナー開催～

2月18日、日高地方4Hクラブ連絡協議会(堀昇平会長)と農業水産振興課の共催により、管内の若手の農業者や新規就農者等を対象とした研修会「農トレ！ひだか」の第3回セミナーを開催し、関係者を含め19名が参加した。

今回は、農作物の安定生産に向けた適正な土づくりや施肥について理解を深めることを目的に、富山県で土壌医として活動されている株式会社国際有機公社代表取締役社長の吉田剛氏を招き、土づくり研修会を行った。

講師からは、土壌の物理性や化学性、有機質肥料と化成肥料の違いなど、土に関する基本的な内容について説明があった。また、生産者は土壌分析の必要性とこれに基づく施肥設計を疎かにしがちである点に触れ、土壌の健全化や持続可能な農業生産を行う上で、基本かつ重要であるとの話があった。

参加者からは、「キヌサヤエンドウ栽培で施肥も十分行っているが、毎年調子が悪いのは、土に問題があるためか?」、「除草剤の使用は土づくりの観点からすれば使用しない方が良いのか?」など、各々の栽培で抱える課題について質問が寄せられた。講師からは、土の酸度との関係に加え、土壌分析による適正な施肥設計を行うことや、土壌の物理性と微生物との関わりについて説明があり、参加者は興味深く聞き入っていた。

当課では、次年度以降も管内の若手の農業者や新規就農者等の育成に向け、本セミナーを通じた知識や技術修得の支援を実施していく。



土づくりについて熱心に学ぶ参加者



作物の安定生産に向けた土づくりについて質問をする参加者

6. 日高地方生活研究グループ連協が食育推進研修会を開催

2月21日、印南町公民館で日高地方生活研究グループ連絡協議会（後藤明子会長）が日高地方学校栄養士研究会の栄養教諭に対し、地元食材と地域資源（ジビエ）を使った料理の紹介と相互の情報交換を図ることを目的に、食育推進研修会を開催し、会員及び関係者等27名が参加した。なお、開催にあたっては、農業水産振興課が同研究会との連携や講師との調整を行ってきた。

最初に、野菜ソムリエプロで料理研究家の吉野健一氏と猪瀬朝子氏が考案したウスイエンドウやミニトマトを使った料理3品について、作り方を説明した後、生活研究グループ会員と栄養教諭が4班に分かれて料理実習を行った。当日は、考案された料理の他、日高地方の郷土料理であるかきまご飯、シカ肉のキーマカレー、大根とシカのそぼろあんかけ、紀州日高漁協から提供のあったアカモクを使ったかき揚げ、ごんばちの炒め煮等9品を作った。

出来上がった料理を試食しながら、自己紹介と料理の感想、小学校での食育教室、加工品づくり等について情報交換を行った。栄養教諭からは、「アカモクを初めて食べた」、「ジビエを使った給食メニューを考えたい」、「情報交換ができて良かった」等の感想があった。

午後は、吉野氏と猪瀬氏から、「地元野菜の魅力の伝え方」と題して講演が行われた。吉野氏は、体験を通じた野菜の魅力の伝え方を、猪瀬氏は野菜嫌いの子供が克服できる調理法や楽しく食べるための工夫等、事例を交えながら話された。参加者からは、「同じ野菜を食べ過ぎたら、体に悪いのか」、「野菜ぎらいの子供への対応や料理の工夫の仕方がとても参考になった」、「今後もこのような場を継続してほしい」という声があった。

生活研究グループでは、これからも学校や給食関係者との交流を図りながら、食育活動を推進することとしており、当課としても活動を支援していく。



吉野氏から料理指導を受ける参加者



情報交換



試食した料理



講演

VI 西牟婁振興局

1. アグリビギナー等技術経営研修を開催

農業水産振興課では、新規就農者と若手農業者の技術や農業経営に関する資質向上を目的として、アグリビギナー等技術経営研修を開催し、先輩農家2名から自身の農業経営を紹介していただいた。

第1回は、2月19日に田辺市上秋津で柑橘の少量多品目（50種類以上）栽培を行っている原拓生氏より、多種類の柑橘詰め合わせセット販売やレストランなど他業種とのコラボ、農業体験イベントなど、柑橘生産を軸に複数の販売チャンネルを展開する独自の経営手法についてお話いただいた。

第2回は、2月27日に白浜町富田地区で野菜の多品目栽培を行っている（株）四つ葉農園代表取締役の濱野孝人氏より、四つ葉農園の経営内容の紹介、法人化に至った経緯、倉庫での資材管理、現在の作付体系、肥料のまき方や畝づくりの大切さについてお話いただいた。

その後、四つ葉農園の圃場に移動し、トラクターや畝立て機を使って畝立ての実習を行った。

この2回の研修を通じ、参加者からは、「ネットワークづくりの大切さを知った」、「中晩柑を作ろうとしていたので、多くの品種を見ることができて勉強になった」、「限られた土地を活用するには多品目栽培が適している」、「自分がこれから何を作っていくか参考にしたい」、「自分も法人化を視野に入れて経営に取り組みたい」などの感想が寄せられた。

当課では、新規就農者や若手農業者が地域に溶け込み、今後の経営発展を模索する中で、先輩農家の取り組みを学ぶ機会は大変有意義であると考えており、今後もこのような研修の機会を設けていく。



原氏から経営紹介



柑橘品種の紹介



（株）四つ葉農園の経営紹介



畝立ての実習

2. 農業士経営研修会（第3回経営発展セミナー）を開催

西牟婁地方農業士会連絡協議会（廣畑幸男会長）は農業経営の改善、地域農業の発展に繋げることを目的に、毎年、経営研修会を開催している。今回は、わかやま農業経営サポートセンターとの共催で、第3回経営発展セミナーとして、2月21日、かんぼの宿紀伊田辺において、「農業経営の法人化と人材育成」をテーマに実施した。和歌山県農業法人協会の土井晃会長及び有限会社山口農園（奈良県宇陀市）の山口貴義代表からの講演、講師を囲んでの車座座談会が行われ、農業士の他、関係者を含め42名が出席した。

講演会では、土井会長から法人化による税制面でのメリットや社会保障制度加入による負担の増加、複式簿記での記帳義務についての話があり、山口代表からは有機栽培にこだわった野菜作りの経緯、規模拡大に伴う人材育成の大切さ、徹底した分業制の導入による作業効率の向上、法人化はそのための土台作りであるとの話があった。

講演会後の座談会では、講師2名の経営や講演会の内容について意見交換が行われ、出席者からは法人化のタイミングや農地の確保、人材育成に関する様々な質問があり、活発な意見交換会となった。

農業水産振興課では今後とも当協議会と連携し、このような経営に関する研修会を開催し、法人化への支援も含め、農業経営の発展を支援していく。



山口代表による講演



座談会での意見交換

3. 女性起業支援のための研修会を開催

農業水産振興課では、2月4日、上富田町農村環境改善センターにおいて、農林水産物の加工・販売や農家レストラン経営などの農山漁村女性による起業活動を支援するため、地域産物を使った加工品開発に関する研修会を開催し、女性農業者ら25名が受講した。

本研修会は出荷規格外の農産物の活用や新しい加工品、レシピの開発を目的として開催しており、今回は「地域産物を使った新しい加工品を作ろう」をテーマに、地元産のイチゴ、ブルーベリー、柑橘類を用いたドライフルーツやフルーツバターなどの加工品の作り方を学んだ。

講師はフランス料理シェフの林拓郎氏（田辺市）が務めた。最初に林氏が事前に用意した見本を用いてドライフルーツの作り方を説明いただいた。続いて、ブルーベリー、イチゴを使った「フルーツバター」と、卵とバター、柑橘果汁で作る「フルーツカード」の作り方について実演を交えて説明いただいた。受講者から「甘い柑橘では砂糖の分量を少なくした方がいいのか？」などの質問が出た。その後、4班に分かれ、林氏の指導を受けながら各班異なる果物を使って調理実習を行った。



林シェフが実演しながら説明

最後に出来上がった加工品をクラッカーやパンに塗って皆で試食し、受講者からは、「フルーツカードは、使う柑橘の種類によって味や粘性が違った」、「フルーツバター、フルーツカードを始めて知ったが、簡単にできるので作ってみたい」、「出荷規格外の農産物の活用を考えたい」などの感想が聞かれた。

当課では、今後も地域に根ざした新しい加工品の開発や販売促進につながる研修会を開催し、女性の起業活動を支援する。



アドバイスを受けながら調理実習



出来上がった4種類のフルーツカード

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】

～U I ターン就農相談フェア出展～

2月23日、第3回U I ターン就農相談フェアが和歌山県J Aビルで開催され、J Aみくまの及び農業水産振興課合同でブース出展をした。

相談会には県内への就農を考えている23組27名が来場した。当ブースの来場者からは「京都在住で東牟婁出身であるが、地元に戻りイチゴ栽培を行いたい。どのような支援・助成があるのか」、「県内の農業関連高校の講師で生徒指導をしているが、学生の就職先を農業とした場合、J Aや県のサポート体制はどうなっている」等の相談がよせられた。

来場者には当課坂井普及指導員から、農業次世代人材投資事業（準備型・経営開始型）の説明・くろしお苺生産販売組合（イチゴセミナー）の活動・施設に対する支援事業等の説明を行った。また、J Aみくまの職員からは、JA トレーニングファームの取り組み（研修内容等）の紹介を行った。

当課は、J Aみくまのと連携して、イチゴ就農プログラムを活用した就農相談や就農相談フェアの出展、産地面談会の実施に取り組んできた。今後も、J Aみくまのトレーニングファームを拠点とした新規就農者の受け入れから、定着までをスムーズに支援できる体制の整備を進めていく。



就農相談

(J Aみくまの・農業水産振興課のブース)



イチゴ就農プログラム



新宮・東牟婁でイチゴをはじめませんか！
くろしお苺生産販売組合がお手伝いします

2. 三津ノ地域活性化協議会が先進地研修を実施

2月13日～14日、三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）は、農産物の高付加価値化と販売方法、鳥獣害対策の先進的な取組事例を調査するために、「JAならけんまほろばキッチン」（奈良県橿原市）、並びに「特定非営利活動法人 里地里山問題研究所」（兵庫県丹波篠山市）で先進地研修を実施した。当日は、三津ノ地域活性化協議会推進委員や関係者 11名が参加した。

最初は、JAならけんファーマーズマーケット課の北吉温能氏から、まほろばキッチンの運営や経営改善等についての説明を受けた。まほろばキッチンは、全国最大級規模の面積を有するファーマーズマーケットで1,200名を超える出荷農家が登録されている。また、シェフがこの直売所で農産物を買って料理する産直バイキングレストランも併設されている。

北吉氏からは、地域や農家を取りまとめることの大変さや開店当初の人手不足、クレームで苦労した話とセルフレジの導入、店舗を空にして在庫をなくす日を年に3回作るなど経営改善を行った話を聞いた。参加者からは「規模が大きい」、「バイキングはだれのアイデアか？」等の感想・質問があった。

また、特定非営利活動法人 里地里山問題研究所では、代表理事の鈴木克哉氏から、獣害対策として「防護柵を適切に設置する」、「無意識の餌付けをしない」、「出没しづらい環境をつくる」、「追い払う」、「出没個体は捕獲する」の5つを基本として、効果的な捕獲方法や事例を交えながら説明を受けた。参加者からは「ICTを用いたシカの捕獲檻の動画がおもしろかった」、「地道な作業と地域全体での取り組みが大切」という声があった。

農業水産振興課では、このような先進地の事例を参考に、三津ノ地域活性化協議会の自発的な取組みを支援していく。



JAならけんまほろばキッチンでの研修



里地里山問題研究所の研修

3. 新宮市熊野川町生活研究友の会が「熊野川なれずし交流会」を開催

2月15日、新宮市熊野川町生活研究友の会（竹田愛子会長）が熊野川温泉さつき交流施設で「熊野川なれずし交流会」を開催した。平成元年から毎年開催されており、今回で31回目の開催となった。和歌山県内各地、三重県などから約80人の参加があった。参加者は7テーブルに分かれ、サンマ、アユ、サバのなれずし15品を食べ比べした。

開会にあたり、竹田会長より「最近は作り手が少なくなっているが、皆さんの協力で開催することができました。連日ニュースでコロナウイルスの報道がされていますが、打ち勝てるようなれずしを食べて元気になってください」とあいさつがあった。

参加者は周囲と感想を語り合いながら一品ずつ食べ比べ、アンケート用紙に感想などを記入した。また、熊野川地域伝統の篠尾こんにやくや地元野菜の漬物、巻きずし、茶がゆも振る舞われた。全てのなれずしを食べ比べた後は、各テーブルで話し合い、最もおいしい品を決定、テーブル代表者が発表した。

交流会会場では、なれずしや篠尾こんにやく、熊野川町で生産された農産物の即売会も実施され、売れ行きは好調であった。

農業水産振興課では地域の活性化や伝統食の保護を行う同会の活動を支援していく。



竹田会長挨拶



周囲と感想を語り合い、実食

4. 古座川町添野川でゆずせん定講習会を開催

2月21日、農事組合法人古座川ゆず平井の里（羽山勤代表理事）は、組合員のゆず園でせん定講習会を開催した。組合員と関係者19名が参加した。

農業水産振興課浅井普及指導員がカンキツ類の基本的なせん定方法について説明を行い、その後、同指導員が5年生ほどのゆず園でせん定方法を説明しながら、実際にせん定を行った。

「徒長枝の多い樹のせん定方法」や「強い枝が多い部分のせん定方法」、また、「カミキリムシやウサギの防除方法」等の質問があり、それぞれの状況に適したせん定方法や防除方法を説明しながら、状況に応じたせん定方法等を指導した。

当課では今後もゆずの安定生産と高品質化を推進していく。



せん定の説明



ゆずのせん定

5. 北山村でじゃばらせん定・幹腐病防除講習会を開催

2月25日、北山村じゃばら生産協同組合（東幸則代表理事）は、道の駅おくとろのじゃばら園でせん定・幹腐病防除講習会を開催した。組合員と関係者13名が参加した。

講習会では、農業水産振興課浅井普及指導員からカンキツ類の基本的なせん定の説明をし、続いて同指導員と北山振興株式会社の山本統括部長が解説を行いながら、模範的なじゃばらのせん定を行った。その後、浅井普及指導員が多発する幹腐病の防除方法として、病患部のワイヤーブラシでの削り取りと、その部分に殺菌剤を散布する方法を実演した。また、3月の防除や雨の多い梅雨時期の殺菌剤散布の必要性と履行の徹底について指導を行った。

参加者からは、「高木化したじゃばらのせん定や枯れ枝の処理」、「殺菌剤の散布時期」等の質問があり、それぞれの状況に応じたせん定・防除方法を説明した。

当課では今後もじゃばらの安定生産と高品質化の取り組みを推進していく。



せん定の説明



幹腐病防除の実演

VIII 農林大学校

1. 卒論発表会を開催

2月18日、卒論発表会を開催し、2年生の園芸学科16人とアグリビジネス学科5人の合計21人が2年間の調査研究の成果を発表した。

学生らが発表した内容は、バラの新品種導入に向けた品種比較や、スナップエンドウの年内どり栽培技術開発、ウメ「NK14」の特性調査、果実一次加工品に対する実需者のニーズ調査など多岐にわたった。発表後は審査員長の野畑果樹試験場うめ研究所長らから質問が行われ、学生は時折言葉に詰まりながらも懸命に回答していた。

研究テーマの中には複数年にわたって継続するものもあり、今後は現在の1年生が来年の発表に向けて調査や研究を進めていく。



バラの品種比較について発表する学生

2. 農学部卒業式

2月28日、卒業式を挙行し、崎純郎校長から2年生21人に卒業証書の授与が行われた。新型コロナウイルス肺炎の感染拡大が心配される中、一部の内容を短縮したものの、成績優秀者らに対する表彰等も行われ、和歌山県知事賞などが授与された。

崎校長は式辞で、学生らの2年間の成長を称えるとともに、「卒業した後も学ぶ姿勢や意欲を忘れないで欲しい」と激励した。

答辞では、アグリビジネス学科の橋本春輝君が「講義や実習を通して自分の世界が広がっていく楽しみを知った」と振り返った後、卒業生を代表して新たな門出にあたっての決意を述べた。

本年度の卒業生は、7人が就農（うち雇用就農2人）し、14人がJAや農機具メーカー、食品会社などに就職する。



卒業証書授与

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 技術修得研修(第2班)が修了

2月7日、就農支援センター研修館において、技術修得研修（第2班）の営農設計発表会及び閉講式を開催した。

営農設計発表会では、令和元年10月から令和2年2月までの計25日間、講義や実習を通じて学んだことを踏まえ、自らの3年後、5年後を見据えた営農計画を発表し、意見交換を行った。研修生それぞれが農業に夢を描き目標に向けて頑張っていこうという思いが伝わってきた。中には前職での経験を活かし、将来的に加工や飲食店経営を行いたいと言う研修生もいた。

閉講式では、修了認定基準を満たした5名に修了証書が手渡された。修了生には今後日高郡内や田辺市、広川町で就農する方や更に専門的な研修を就農予定地で受ける方もいる。当センターでは目指す農業経営の実現に邁進されることを祈念する。



営農設計発表会



修了証書授与

2. 社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）閉講式を開催

2月14日、就農支援センター研修館において、社会人課程修了式を開催した。

令和元年5月から令和2年2月までの9ヶ月間にわたり研修をおこなった8名が、田辺産業技術専門学院の峠学院長から一人ずつ修了証書を手渡された。

また、修了式の後、研修修了生がこれまで学んできた知識と経験を活かして、5年先を見据えて作成した“私の営農設計”を発表し、意見交換を行った。中には、露地野菜の栽培に加え新たにハウスを建設してミニトマトの栽培に取り組みたいと語る研修生や過疎地域や耕作放棄が進む山間地で千両栽培を担っていきたいと語る研修生もいた。

彼らは今後、自分か思い描く営農プランに向けて、また、地域農業の担い手としての第一歩を踏み出す。



閉講式



営農設計発表会

3. UIターン就農相談フェアを開催

2月23日、和歌山県JAビルにおいて、今年度最後の開催となる「UIターン就農相談フェア」を、マスク着用・アルコール消毒液設置など新型コロナウイルスの感染防止策をとり、開催した。相談会には、県内への就農を考えている方や農業に興味のある方23組27名（うち県内19組、県外4組）が来場した。県やJA、一部の市町による農業に関する相談に加え、移住相談、資金相談、林業就業相談など幅広い分野のブースでそれぞれの相談者に合った相談対応が行われた。

また、相談と並行して、新規就農セミナーを開催した。このセミナーでは、印南町で平成29年に就農しミニトマト栽培を行っている方と和歌山市で平成28年に就農しイチゴの栽培を行っている方が、就農した際の経験談や現在の状況について発表した。「農業を始めるにあたって資金がかなり必要である」という厳しい意見や「地域に馴染むことを考え地域の行事に参加した」という移住する際の心構えなどを聞いた参加者は「実際に就農した方から実情を聞くことができ、改めてきちんと就農について考える良い機会となった。」と感想を述べていた。



相談会場



新規就農セミナー

X 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 県農林水産業のリーダーを認定

～令和元年度農業士・林業士・漁業士認定式を開催～

2月5日、ダイワロイネットホテル和歌山で、令和元年度農業士・林業士・漁業士認定式を開催した。

仁坂知事、岸本県議会議長はじめ、各関係団体等の代表者を来賓に迎え、今年度新たに認定された農林漁業士や関係者等、約130人の出席があった。

式典では、仁坂知事から農林漁業の各分野で後進の育成指導等に功績のあった指導農業士等に対し感謝状の贈呈があり、5名の方々が直接、感謝状を受け取った。

続いて今年度認定された農林漁業士74名（うち農業士は57名）に認定書の交付が行われ、指導、地域、青年農業士等それぞれの代表者が認定書を受け取った。

仁坂知事の式辞、岸本県議会議長の祝辞の後、感謝状を受け取った方々を代表して新宮市の大石元則氏（指導農業士）が挨拶、新たに指導農業士に認定された有田川町の小沢利光氏が「地域の農林水産業、農山漁村の活性化に一層努力する」と誓いの言葉を述べた。

経営支援課では、引き続き農業士の活動を支援していく。



知事、議長を囲んで
感謝状被贈呈者の記念撮影



指導農業士代表で
認定書を受け取る山添氏

2. 和歌山県青年農業者会議

2月14日、標記会議が和歌山県4Hクラブ連絡協議会（山本秀平会長）、（公財）和歌山県農業公社（和歌山県青年農業者等育成センター）の主催、県の協力のもと、きびドーム（有田川町）で開催された。青年農業者をはじめ、農林大学校、農業系高等学校（紀北農芸、有田中央、南部、熊野）の学生、生徒や関係者ら約140名が参加した。

本会議は、日頃の活動で得た知識や技術を相互に交換し、資質向上と交流を図るとともに、学生らに就農に対する意識を向上させることを目的に開催している。当日は、県内青年農業

者代表者から日頃の調査研究活動や自らの経営の成果、目標について 8 課題の発表があった。

審査の結果、最優秀賞（知事賞）には、みなべ梅郷クラブの山本宗一郎氏（「うめ産地を救う！？伐採班の活動」）、優秀賞（県農業公社理事長賞）には和海地方 4 H クラブ連絡協議会の志賀友哉氏（「ワークシェアで働き方改革」）、奨励賞（県 4 H クラブ連絡協議会会長賞）には印南町 4 H クラブの西山和克氏（「印南の農業をつなげたい！～印南町 4 H クラブの挑戦 2～」）が選ばれた。

なお、山本氏は、来年 1 月に開催される近畿地域農業青年会議（滋賀県）で県代表として発表する予定である。

また、審査時間を活用して、農林大学校生及び高校生から特別発表（プロジェクト発表、意見発表）が行われるとともに、青年農業者及び学生が生産する農産物等の展示や試食も行われ、参加者らは交流を深めた。



プロジェクト発表



表彰式（最優秀賞）

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489